

# WEL・NET

# 通信

2017.5

発行日 平成29年 5月24日  
発行 西広島リハビリテーション病院  
事務局  
☎ 082-921-3230 (代表)  
URL <http://www.welnet.jp>  
E-mail [wel@welnet.jp](mailto:wel@welnet.jp)

- 特集 1 第29回 研究大会 in 広島
- 特集 2 リハ科専門医 4 名体制
- 広島県回復期リハの会研修会・佐伯区ブロック（圏域）研修会

WELNET 通信は、西広島リハビリテーション病院の地域リハビリ・地域連携に関わる活動をご紹介します広報誌です

## 特集 1

2017.  
2.10(金)-11(土)

一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会

## 第29回 研究大会 in 広島

レベルアップ! スピードアップ! フォローアップ!

大会キャラクター  
リハモン



大会長講演の様子  
(国際会議場フェニックスホール)

2017年2月に開催された回復期リハビリテーション病棟協会主催の「第29回 研究大会 in 広島」は、大盛況のうちに2日間の日程を終えることができました。ご支援をいただきました行政・企業・団体の皆様、ご参加いただいたすべての皆様に、御礼申し上げます。ありがとうございました。

皆様のご支援・ご協力のおかげで、「第29回 研究大会 in 広島」を無事に開催することができました。大会は1,053の一般演題、48社からご協賛頂いた企業展示で大いに盛り上がり、昨年のカープ優勝の勢いがまだ続いているかのようでした。最終的に3,226名の過去最高の参加を頂きましたが、「スタッフのチーム力が素晴らしい」と多くの皆様にお褒めいただくことが大きな財産になりました。

おかもと たかつく  
大会長 岡本 隆嗣  
西広島リハビリテーション病院 病院長

第29回研究大会は、終日盛況を呈し、成功裡に終わりました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。2日間は天候にも恵まれ、参加者は大会での発表、討論に打ち込むことができました。本大会が日本における回復期リハビリテーション病棟のレベル向上に幾分でも寄与できたとすれば、開催者一同にとって、これに勝る喜びはありません。有難うございました。

あんどう せいいち  
大会副会長 安東 誠一  
西広島リハビリテーション病院 副院長

多くの皆様に「広島へ行きたい」と思っていただけのように、3年前からさまざまな企画を準備し、1年かけて職員の接遇研修を行いました。当日は何度も冷や汗をかきましたが、病院に残って勤務した職員も、大会運営に参加した職員も、皆が心一つにして無事に終える事ができました。行き届かない点もあつたかと思いますが、謹んでお詫び申し上げますとともに、改めまして参加された皆さまへ感謝申し上げます。

すぎもと まりこ  
大会実行副委員長 杉本 真理子  
西広島リハビリテーション病院 副院長



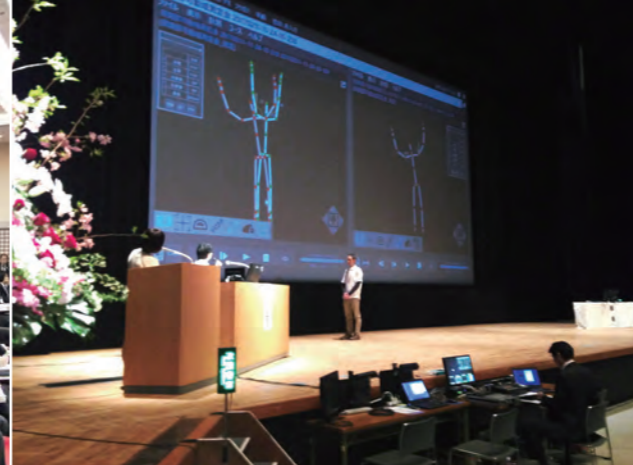
シンポジウム：どうなる？2018年診療報酬・介護報酬～回復期～ 大会長講演（大会長：岡本 隆嗣）



大会長講演（大会長：岡本 隆嗣）



教育講演XII：回復期から生活期（長谷川 幹先生）



ステージプレゼンテーション（システムフレンド様：MMV 鑑 AKIRA）



特別企画：熊本地震（三宮 克彦先生）

特別講演・ランチョンセミナー 1

## 回復期に活かす！脳卒中リハビリテーション

2017.2.10  
12:00 - 13:50

東京慈恵会医科大学 リハビリテーション  
医学講座 主任教授 安部 雅博 先生（写真右）

和歌山県立医科大学  
リハビリテーション科 教授 田島 文博 先生（写真左）

田島先生からは、主に急性期のリハビリについて、早期からの徹底した運動の重要性が示されました。運動により全身が活性化され、意識状態が改善し、死亡率も下がることが分かっています。目の前の患者さんをしっかりと診察・診断して、安全に行なえるギリギリ最大限まで早期離床、運動負荷を実践することが大切である、とのことでした。

安部先生からは、主に生活期のリハビリについて、磁気刺激治療・ボツリヌス療法等の改善を目指す技術、人材派遣会社と協力し障害特性に合った就労を促す活動などをご紹介いただきました。リハビリ医療は目覚ましく進歩しており、重度でも、時間がたっても、改善する症例がみられています。患者さんが少しでも良くなるよう挑戦し続けることの大切さについて、熱く語っていただきました。



▲ どこかで聞いたような BGM が流れ、ステージの中央に接客セットと先生方が登場。リラックスした雰囲気の中で本音トークがかわされる、新しい形式のランチョンセミナーとなりました。

## 第 29 回 研究大会 in 広島

一部  
ご紹介  
講演

今大会では、「レベルアップ！スピードアップ！フォローアップ！」をテーマとした 35 の講演が行なわれました。参加者の皆さんにとって、「勉強になる」だけでなく、「参加して良かった」「楽しい！」と思っていただけの学会を目指し、さまざまな新しい講演の形式や企画を取り入れました。貴重なご講演をいただきました先生方、企画に参加していただいた皆様、誠にありがとうございました。

ここでは、特に新しい試みを取り入れた講演をご紹介します。

聴きたい講演が多すぎて  
周りきれなかった…！  
という皆様、  
一部ですが、こちらで  
チェックしてくださいね。

基調講演

## 回復期リハビリテーション病棟のレベルアップ！スピードアップ！フォローアップ！

2017.2.10  
10:10 - 11:50

藤田保健衛生大学  
七条記念病院 病院長 園田 茂 先生（写真左）

社会医療法人大道会 副理事長  
森之宮病院 院長代理 宮井 一郎 先生（写真中央）

医療法人社団 理生会  
理事長 石川 誠 先生（写真右）



レベルアップとスピードアップを語る上でキーになるのが、2016 年診療報酬改訂で新たに評価基準として導入された FIM 実績指数です。2016 年のデータでは、在院日数には短縮が見られるものの、退院時の FIM に大きな変化はなく、真のレベル&スピードアップが進んでいるとは言えません。リハビリの質向上とともに、FIM 評価が適正になされるよう啓発し正しいデータをリハビリにフィードバックしていくことも大切である、との提唱がありました。

フォローアップについては、地域リハビリテーションの 3 本柱ののった活動が求められます。病院は、外来・訪問・通所リハなどを充分提供し、その情報をフィードバックして入院リハの質を高めること(①直接援助活動)。また、地域リハセンターとして積極的に活動し、行政と良好な関係を築くとともに(②組織化活動)、地域住民への教育と予防事業に注力すること(③教育啓発活動)、といった展望をお話いただきました。

ステージプレゼンテーション

## Let's 回復期リハのレベルアップに向けて

2017.2.11  
10:00 - 11:50

HBG ホールのステージで行われた企業合同プレゼンテーションです。8 社の企業様にご協力をいただき、迫力の大画面で先端機器のデモンストレーションを行っていただきました。



▲ 参加者が舞台上で体験し、その様子が画面に映し出されています。（画面はパラマウントベッド様による「Fieldo」デモ）

▲ ホールの外には各企業のブースがあり、詳しい話を聞けるようになっています。

- ★ 国際電気通信基礎研究所 (ATR) 装着型ロボット・BMI リハ用ロボット技術
- ★ 本田技研工業株式会社 Honda 歩行アシスト
- ★ 株式会社島津製作所 SMARTNIRS・SPEEDNIRS
- ★ 株式会社デンケン DRIVE
- ★ 帝人ファーマ株式会社 ウォークエイド®・ReoGo®
- ★ パラマウントベッド株式会社 Fieldo
- ★ 株式会社システムフレンド MMV 鑑 AKIRA
- ★ フランスベッド株式会社 & WHILL 株式会社 WHILL Model AM

ご協力をいただいた企業の皆様、誠にありがとうございました！

委員会企画 1（栄養委員会）

## 食べる意欲を引き出す工夫

2017.2.10  
13:00 - 13:50

熊本機能病院 栄養部 課長 高山 仁子 先生

西広島リハビリテーション病院 栄養課 課長 影山 典子

摂食嚥下障害に対するリハビリは重要ですが、食べられるようになって食べて頂けないのでは、成果は上がりません。患者さんの食べる意欲を引き出すためには、患者さんの“食べるスイッチ”を見つけると良いとのこと。もともと好きだったものから始める(嗜好)、器と食物の色に明度差をつけ、分量を少なく見せる(視覚)、他にも聴覚・嗅覚・温度(触覚)を刺激にするなど、アプローチ例をご紹介いただきました。

また、広島ならではの嚥下調整食として、西リハ病院で提供しているお好み焼きをご紹介しました。お好み焼きは広島人にとっては慣れ親しんだソウルフードであり、温かさやソースの香りが刺激となって、病棟での喫食率も高いと報告されています。作り方を動画でご紹介し、会場の皆様にも 100 食を用意してご試食いただきました。



▲ 嚥下調整食(舌で押しつぶせる硬さ)のお好み焼き。通常の広島のお好み焼きは層になってばらけやすいため、具材を細かく刻み先に混ぜて焼くなど、試行錯誤を重ねた一品です。

※ レシピは以下の書籍に掲載されています。(参考)「嚥下調整食レシピ 105」(回復期リハビリテーション病棟協会栄養委員会監修 栢下淳、高山仁子 編著 医歯薬出版株式会社)

このたび、当院の前城医師（本館 2 階病棟）が、新たに日本リハビリテーション医学会が認定するリハビリテーション科専門医の資格を取得しました。同じくリハビリテーション科専門医である佐藤医師が転勤のため、今後は 4 名体制となります。

リハビリテーション科専門医とは...

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会が認定する資格。2017 年 5 月 12 日現在、2,279 名のリハ科専門医がいます。（日本リハビリテーション医学会ホームページより）



本館 2 階病棟 医師  
まえしろ ともひで  
前城 朝英

前城医師にインタビュー!

Q リハビリテーション科専門医とは、どのような資格ですか?

リハビリテーション科専門医（以下、リハ科専門医）とは、「病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することを専門とする医師」のことです。リハ科専門医は、運動障害、認知障害を横断的、総合的に診る専門家として、医療において重要な役割を果たしています。（日本リハビリテーション医学会ホームページより）

Q 資格を取得されたきっかけは?

主に脳疾患、特に脳卒中を担当していますが、リハの対象となる疾患は、脳疾患以外に脊髄損傷、骨関節疾患、切断、神経筋疾患、小児疾患、呼吸循環器疾患、がんなど多岐にわたります。より幅広くリハの対象となる疾患に対応するため、知識量を増やすことで、少しでもリハ医としての経験不足がカバーできればと、試験に臨むことにしました。

Q 今後の抱負をお願いします!

リハ医として、やっとスタートラインにつけました。すでに専門医を取得された先生方や院長先生のように、オールラウンドなリハビリテーション医になれるように、これからも研鑽を続けていきたいと思っています。



本館 2 階ミーティング風景

リハ科専門医 4 名体制で、これからもより良いリハビリテーションに貢献できるよう、努めてまいります。



病院長・リハ科専門医  
岡本 隆嗣 おかもと たかつく



リハ科専門医  
荒川 良三 あらかわ りょうそう



リハ科専門医  
瀧本 泰生 たきもと やすお



地域の皆さんが住み慣れた場所で生き生きと暮らしていくためには、口から安全に食事を摂り、良い栄養状態を保つことがとても重要です。このために大切なことを、3つの視点からお話しいただきました。

窒息のリスクを回避するためには食道入口部を開くことが大切であり、このため食事のときは顎を前に突き出す姿勢をとるのが良いとされます。また、高齢者は若い人よりも低栄養・筋肉低下のリスクが高いため、より多くのたんぱく質（特にロイシン）の摂取を心がけることが大切となります。さらに咀嚼のお話では、義歯や舌摂食補助床を作って口腔内の環境を改善することで、嚥下リハがスムーズに行える場合がある、という点等をご紹介いただきました。

広島県回復期リハビリテーションの会

回復期リハビリテーション病棟協会の地方会として、平成 27 年 6 月 26 日に設立しました。広島県下の回復期リハ病棟の質向上・会員相互の連携を深めるため、定期的な研修会開催等を行っています。当院が事務局を務めさせていただいております。

事務局 医療法人社団 朋和会  
西広島リハビリテーション病院内  
TEL: 082-921-3230 (担当: 吉野)

回復期における摂食嚥下障害患者の捉え方

日時: 2016 年 12 月 13 日 (火) 18:30~20:30  
場所: 広島県医師会館 メインホール

1. 「姿勢のお話」 県立広島病院 小児感覚器科 主任部長 益田 慎 先生
2. 「栄養のお話」 県立広島大学 人間文化学部 健康科学科 教授 栢下 淳 先生
3. 「咀嚼のお話」 広島大学大学院 医歯薬保健学研究院 先端歯科補綴学研究室 准教授 吉田 光由 先生



佐伯区での地域リハビリテーション・介護予防事業促進に向けた研修会を、当院主催で行いました。当日は、医師、リハビリ等専門職、また佐伯区健康長寿課、地域包括支援センターの職員の皆さん等、計 71 名が参加されました。

「健康寿命」を延ばすために地域住民が主体的に活動する「運動を中心とした通いの場」を佐伯区で増やしていくための方策について、具体的に研修し、議論しました。

団塊の世代の方がすべて 75 歳以上となる 2025 年に向けて、高齢になっても障害があっても、住み慣れた地域でできるだけ安全にその人らしく生活することができるように、今後も行政とも連携しながら活動していきたいと考えています。

日時: 2017 年 2 月 21 日 (火) 19:00 ~ 20:30  
場所: 佐伯区役所

佐伯区での地域リハビリテーションを推進するために、広島県地域リハビリテーション広域支援センターである当院が研修会を主催しました。

医療法人社団 朋和会  
西広島リハビリテーション病院内  
TEL: 082-921-3230  
(担当: 地域連携部 地域支援リハビリマネージャー 岡)

1. 「佐伯区における地域介護予防拠点整備促進事業の現状と未来」 佐伯区厚生部健康長寿課高齢福祉係 保健師 石川 夫己子 氏
2. 「湯来・砂谷地区における実践事例報告」 広島市湯来・砂谷地域包括支援センター 保健師 新谷 綾 氏  
介護老人保健施設 湯来まつむら 作業療法士 栗枝 聖子 氏
3. 「地域介護予防拠点整備促進事業を療養士の『面』で支えるために」 広島グリーンヒル病院 理学療法士 石丸 典久 氏  
西広島リハビリテーション病院 作業療法士 岡 光孝
4. グループワーク



平成 28 年 11 月～平成 29 年 4 月に実施した地域リハビリ研修会です！

当院は **地域リハビリテーション広域支援センター** です！

当院は、地域におけるリハビリテーション支援体制を推進するための施設として、広島県から指定を受けています。地域リハビリ活動の一環として、地域リハビリ研修会を2～3カ月に1度開催している他、出前リハビリ講座の実施、区民まつりへの参加、広報誌やホームページ、退院患者統計での情報発信などを行っています。

全4回  
シリーズ

## 食べるよろこびは 生きるよろこび！



～健康長寿のための嚥下・口腔ケア～

平成 28 年度の地域リハビリ研修会は、「食べるよろこびは生きるよろこび！」と題して、嚥下・口腔ケアをテーマに全4回シリーズの研修会を行ってきました。最終回となる第4回が11月に行なわれましたので、その様子をご紹介します。  
(1～3回についてはWELNET通信2016.11号に掲載しています)

4

地域リハ研修会  
No.104

## 口腔ケアと口腔リハビリ

口の健康は全身の健康につながる！



口腔ケアは、単なる「歯磨きの介助」ではありません。「唾液分泌を促し自分で浄化できる口を作る」、「ストレッチをして口の周りを動きやすくする」、「口の中の刺激で脳を活性化させる」など大切な役割があります。口腔ケア時の正しい姿勢、唾液の分泌を促す唾液腺マッサージ、口の周りの筋肉を動かす顔面マッサージ、舌のストレッチなど、実技を交えて具体的な方法を解説しました。「口の中を刺激すると、ドーパミンが増えてきて、それによって嚥下反射や咳反射を促してくれる物質も増えるということが分かりました。唾液出る、脳に届け、ドーパミン出る！と念じながら、気持ちがよくなるような口腔ケアを行いましょ（荏原講師）」  
講義の最後には、口が開きにくい方、触覚過敏の方など、症状別の対応方法を、訪問リハビリの経験談をまじえながらご紹介しました。

### シリーズ全4回

- 2016.8.10  
**嚥下障害と肺炎**  
講師：木下 翔司（医師）
- 2016.9.10  
**嚥下障害に負けない！**  
講師：今橋 郁美・本田 容子（言語聴覚士）
- 2016.10.18  
**かんたん嚥下食の秘密**  
講師：影山 典子（管理栄養士・栄養課課長）
- 2016.11.19  
**口腔ケアと口腔リハビリ**  
講師：荏原 幸恵（訪問リハビリ言語聴覚士）

2016.11.19（土）13:30～15:00

講師： 荏原 幸恵  
（言語聴覚士 / 訪問リハビリ）  
受講者数： 33名

### 参加者の声

- ご本人が気持ちよくなるように、脳に刺激が入るように、唾液が出るように、と楽しみながら行うことの大切さを実感しました。（看護職）
- 口が開かない人への口腔ケアのやり方、工夫が知れて良かった。（看護職）
- 姿勢が大事など、今まで知らなかったことがたくさん聞けてとても満足しています。（一般参加者）
- 実際にやってみて実感できました。（ケアマネジャー）

平成 29 年度地域リハビリ研修会のテーマは

### 介護予防（全5回シリーズ）

を予定しております。（7月開始予定）  
ホームページ等で最新情報をお知らせしますので、是非チェックしてくださいね。



平成 28 年 11 月～平成 29 年 4 月のイベント・ニュースをまとめました。

## イベント・ニュース

### 平成28年度 佐伯区民まつり

2016/11/13

今年で10回目の参加となります。体組成測定やロコモ判定（運動機能が低下していないかをチェックするもの）、病院スタッフによる食事・運動のアドバイスをを行うブースを出展しました。当日は晴天に恵まれ、143名もの方が当院のブースに足を運んでくださいました。

- ▶ 療法士・トレーナー・管理栄養士などが参加しました。
- ▼ 体組成測定が無料で行えます♪結果をもとに、スタッフがアドバイスします。



今回は、管理栄養士とトレーナーが協力して作ったお手製レシピカードも配布。気合いが入っています。

### 自衛消防隊消防競技大会

2016/10/25



▲ 女子チームとしては初参加で4位の快挙！練習の成果が出ました。

50回目の競技大会が旧市民球場跡地で行われました。屋内消火栓女子の部に、当院介護スタッフの大橋・川本・田原が参加し、16チーム中4位となりました。

### 脳外傷友の会ナナクラブハウスすてっぷなな 統括所長 野々垣様「高次脳機能障害者の地域生活支援」講演

2016/11/28

高次脳機能障害者の自立生活・就業支援について、職員向けにご講演いただきました。どのような点に気を付けてサポートすべきか、退院の前に病院で準備しておくべきことは何か。実際に活動されている経験をもとに、お話しいただきました。



### クリスマスコンサート

2016/12/16



▲ クリスマスメドレーをみんなで歌い、盛り上がりました。

当院では定期的に、入院患者さん・退院患者さんによる楽器演奏コンサートを開催しています。今回はソプラニーノ（リコーダー）、ハーモニカ、ギター、ドラムなどを披露していただきました。

### 中国新聞掲載「詰まらない餅」

2016/12/23



▲ 実際に掲載されたれんこん餅のお雑煮

中国新聞より、のどに詰まりにくいお餅料理の作り方について、栄養課課長 影山（管理栄養士）が取材を受けました。白玉粉と野菜を使用したレシピをご紹介します、12月23日の朝刊に掲載されました。



▲ 取材時、レシピの料理を作成する影山管理栄養士。

### 第10回 広島脳卒中地域連携の会

2017/3/8

テーマは、「かかりつけ医と一緒に（脳卒中患者への）地域包括ケアを話し合おう」。医師・看護師・療法士・医療相談員・ケアマネジャーなど、100名以上の参加がありました。広島市健康福祉局の萩原和宏様より、広島市の現状と取組みについて、広島市立リハビリテーション病棟の郡山達男先生より、改定された広島県共用脳卒中地域連携パスについてご紹介をいただき、その後グループディスカッションを行いました。

- ▶ 改訂地域連携パスのご紹介
- ▼ 脳卒中の再発予防について各職種ができること、地域包括ケアに必要なこと、をテーマにグループディスカッションを行いました。



# 研究会 in 広島

ご参加・ご協力いただいた皆様

ありがとうございました！



ポスター会場も大盛況でした

「お好み焼き」



1日目の広島名物「お好み焼き」

スタンプラリー



口述発表会場にもたくさんの方が足を運んでくださいました



懇話会ではサンパルスカーネーションが大活躍！みんなでCCダンスも踊りました



外観コーナーではコーヒーを配布しました



## 医療法人社団 朋和会 基本理念

### 信じ合い、明日を拓く

私たちは「信じ合い、明日を拓く」という言葉を基本理念としております。

「信じ合う」という言葉は、患者さんと職員との信頼関係とともに、職員間の信頼関係も含んでおります。理想的なリハビリテーションは、ひとりの患者さんを中心に全スタッフが取り組むチーム医療が原点です。たしかに信頼関係のもと、全職員が心をひとつにして治療に取り組めばそこには安心感が生まれ、患者さんに、より大きな満足をいただけるものと信じております。

「明日を拓く」という言葉は、現状に満足することなく未来へ向けて挑戦したいという私たちの願いです。超スピードで進化する医学の流れをしっかりと見定め、フロンティア・スピリッツを胸に、どんな困難にも立ち向かっていきたいという気持ちをこの言葉で表現しました。

「信じ合い、明日を拓く」この言葉をいつも大切に考え、患者さんやご家族の皆さん、受診者の皆さんにご奉仕し、地域社会の発展に寄与していきたいと心より願っております。

医療法人社団 朋和会  
初代理事長 岡本 則昭

### 医療法人社団 朋和会 西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅 6 丁目 265 番地  
TEL : (082) 921-3230 (代表)  
FAX (082)921-3237 E-mail wel@welnet.jp  
URL <http://www.welnet.jp/>

★ 2017 年 6 月 1 日より体制が変更となります。  
会長：岡本 真知子 理事長・病院長：岡本 隆嗣



★ 広島中心部より車で約 30 分 ★ 広電楽々園駅より車で約 10 分 ★ JR 五日市駅南口よりバスで 15 分

